

## 平成 29 年度業務実績評価（案）に対する分科会委員意見

項目	委員意見	対応（案）
1 血管病医療 事務局評定：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>（項目 1 に限らず病院部門全体について）概ね妥当な評価。超高齢社会で重点的に求められる疾患領域に的確に取り組んでいる。急増する高齢者の救急に対応する体制をよく構築している。</li> <li>IMPELLA について、高齢者に限らず当該治療を提供するのであれば、対象となる患者の年齢やその意義についても説明する必要があると考える。</li> <li>目標値を達成していないものが複数ある中で、定量的に測ることのできない要素やセンターの努力では対応できない外的要素を考慮し、「A」とした。</li> </ul>	<p>趣旨を意見書に反映</p> <p>趣旨を意見書に反映 （今後、法人の実績報告にあたって、各症例・治療法における患者の年齢構成や、特定の治療法を特定の患者に施行する意義等について提示することができるよう、検討していく。）</p> <p>－</p>
2 高齢者がん医療 事務局評定：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD は高齢者に非常に有効な治療法であるが、ESD に限らず全ての治療法について対象患者の年齢を示してはどうか。センターは、高齢者に適用することで新たな知見を見出せないか等を研究する機関であると思うため、各症例・治療法について患者の年齢構成等を示す必要があると考える。</li> </ul>	<p>趣旨を意見書に反映 （今後、法人の実績報告にあたって、各症例・治療法における患者の年齢構成や、特定の治療法を特定の患者に施行する意義等について提示することができるよう、検討していく。）</p>
4 急性期の取組 事務局評定：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値を達成していないものが複数ある中で、定量的に測ることのできない要素やセンターの努力では対応できない外的要素を考慮し、「A」とした。</li> </ul>	<p>－</p>
5 救急医療の充実 事務局評定：S	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者について、年齢分布、ウォークインと救急車の内訳を明らかにしてはどうか。評価委員には救急車のみで 10,000 人を超えている印象を受ける。診療報酬上、どの病院も救急患者を一生懸命確保している中で、公的医療機関は、地域の他の病院の経営状況やニーズを分析しながら救急医療の提供に向けた地域連携を進めていく必要があると考える。 また、高齢者の救急受入れによってどのように地域包括ケアに貢献しているのか見えてこない。在宅診療を受けている患者の割合や在宅訪問診療医からの紹介の割合などが指標になるのではないかと考える。</li> <li>救急患者の受入れについて、関係機関との連携により出口までしっかり体制が出来ているからこそその実績。良いモデルになるのでは。</li> <li>ICU/CCU 患者受入数が目標値 3000 人に対して実績 2300 人であることを踏まえ、評定は A と考える。 ただし、新設した SCU を考慮すると、実績が目標を大きく下回っているとは言えないのであれば、「S 評価」でよいと考える。</li> </ul>	<p>趣旨を意見書に反映 （今後、法人の実績報告にあたって、救急患者の年齢構成や救急外来への来院手段の内訳等を提示することができるよう、検討していく。）</p> <p>趣旨を意見書に反映</p> <p>ICU/CCU の受入数については、SCU の実績と合算すれば目標値を達成している。救急患者の受入数や受入れに向けた取組を含めた総合的な評価により、S 評価を維持する。</p>

6	地域連携 事務局評定：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>退院支援について、地元の顔が見える医療機関に限らず、遠方の顔の見えない医療機関に対してもきめの細かい情報提供を行うことは難しい。しかし、センターは高齢者に特化している医療・研究機関であり、こうした状況でも対応できる退院支援をどのように行うか等の研究成果があるとよい。ただ逆紹介しているというだけでは、他の公立病院や地域支援病院と同様であり、センターの特徴を欠くことにはならないか。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映
		<ul style="list-style-type: none"> <li>B 評価であることに異論はないが、急性期医療・救急医療の確保という意味での地域連携についてはしっかりできていると考える。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映
8	医療安全対策の徹底 事務局評定：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒・転落発生率について、引き続き目標達成に向けて取り組んでほしい。研修参加率については、欠席者へのフォローを含めて参加率 100% にすべき。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映
9	患者サービスの向上 事務局評定：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「引き続き…」以降で、「外来患者満足度を一層高めるよう努めてほしい」という趣旨の文言を入れてはどうか。待ち時間の短縮等、ターゲットが明確なら対策に着実に取り組んでほしいとの意味。</li> </ul>	評価書においては、「患者満足度の向上に向けて、患者中心の医療の実践と取組状況の検証に努めてほしい」とした上で、そう求める根拠として目標値に対する実績値を掲載し、今年度目標を達成できなかった外来患者満足度の向上に向けて着実に取り組むことを促している。そのため、特段の修文は行わない。
12	社会科学的研究 事務局評定：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「災害時における高齢者への支援」も含めて B 評価を妥当と考える。</li> </ul>	—
13	先進的な老化研究の展開… 事務局評定：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値と実績値を比較し、S 評価が妥当と考える。</li> </ul>	過去に S 評価とした年度との相対評価も踏まえ、A 評価を維持する。
16	業務の改善・効率化 事務局評定：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>評定 A</li> </ul>	29 年度の実績及び過年度との相対評価を踏まえ、B 評価を維持する。
18	収入の確保 事務局評定：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定率の減だけでなく、「管理料や指導料などの適正化をすすめる」、すなわち、マイナスからゼロでなく、プラスにすることが必要。</li> </ul>	査定減によりマイナスからゼロにすることのみならず、更にプラスにしていくことをも念頭において取り組んでいることから、評価書においては「保険請求事務の精度向上」という表現を用いている。意見書においては、「更なる収入の確保に向けて取組を強化していくことを期待する」との文言に包含されるものとして反映する。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>診療単価の上昇や、季節性の患者数変動に対する経営努力等を踏まえて総合的に評価すると、A が妥当と考えるが、セグメント情報を見る限り、病院部門については更に収入増を目指す必要があると考える。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映
全 2	サービス・その他の業務の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動の更なる拡大を期待したい。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映
全 3	業務運営の改善・効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>収支改善への更なる取組を期待したい。</li> </ul>	趣旨を意見書に反映